

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	御幸日中活動センター	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人県央福祉会 ・代表者名 佐瀬 睦夫 ・住所 神奈川県大和市柳橋5-3-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護（定員30名） 在籍者数 21名（平成28年3月31日現在）																																							
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>75,027千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>80,411千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>53,321千円</td> <td>人件費</td> <td>59,216千円</td> <td rowspan="7">-5,800千円</td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助</td> <td>15,266千円</td> <td>事務費</td> <td>11,057千円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料等</td> <td>0千円</td> <td>事業費</td> <td>5,644千円</td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>3,726千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>4,494千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2,715千円</td> <td>施設整備等支出</td> <td>416千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75,027千円</td> <td>合計</td> <td>80,827千円</td> </tr> <tr> <td colspan="5">※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</td> </tr> </table>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	75,027千円	福祉事業活動	80,411千円	給付費	53,321千円	人件費	59,216千円	-5,800千円	川崎市単独扶助	15,266千円	事務費	11,057千円	指定管理委託料等	0千円	事業費	5,644千円	拠点区分間繰入金	3,726千円	拠点区分間繰入金	4,494千円	その他	2,715千円	施設整備等支出	416千円	合計	75,027千円	合計	80,827千円	※端数処理のため合計が一致しないことがあります。				
収入		支出		収支差額																																				
福祉事業活動	75,027千円	福祉事業活動	80,411千円																																					
給付費	53,321千円	人件費	59,216千円	-5,800千円																																				
川崎市単独扶助	15,266千円	事務費	11,057千円																																					
指定管理委託料等	0千円	事業費	5,644千円																																					
拠点区分間繰入金	3,726千円	拠点区分間繰入金	4,494千円																																					
その他	2,715千円	施設整備等支出	416千円																																					
合計	75,027千円	合計	80,827千円																																					
※端数処理のため合計が一致しないことがあります。																																								
サービス向上の取組	<p>・医療的ケアを含め重度の利用者を多く受け入れ、生産・創作・余暇の活動それぞれにおいて個別のアレンジを加え、すべての利用者が身体機能や日常生活能力の維持・向上に楽しみながら取り組み、安心して地域生活を送れる支援を工夫している。</p> <p>・家族等と顔を合わせる時間を多く確保し、利用者についてのやり取りを頻繁に行った結果、特に重度の利用者から選ばれる施設となっている。</p>																																							

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	3	6
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <p>・重度障害を含めた各利用者の個別状況に的確に対応するため、PTをはじめ多職種の専門職から指導を受け、また専門研修を受講した。それを全職員で共有することを続けている。支援事例の少ない障害をもつ利用者への支援に関する取組を続けた結果、年を追うごとに精神的・情緒的安定に向かっている。</p> <p>・朝夕の送迎時に必ず利用者の様子等について家族とのやり取りを継続し、施設の取組みを知ってもらうことで「意見交換」から「おしゃべり」へと関係が深まった。その結果、利用者が施設・在宅それぞれで精神的に安定して暮らせる環境が構築されつつある。</p>					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>・支出については、常勤職員1名を追加で配置し、前年度から増となったが、消耗品費の減などにより、当初の見込みを下回った。</p> <p>・収入については、長期入院者がいたことなどにより給付費収入が減となり、収入全体で見込を下回った。また、収支はマイナスであった。</p> <p>・適切な会計手続が行われている。</p>					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4	
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>・利用者の好みとニーズに合ったプログラムを提供するために、一人一人の心身の状態を細かく分析し自助具を作成したり、作業工程のうち参加可能な部分を見いだすことによって、なるべく多くのプログラムを提案できるよう工夫している。また、風や音・光等の屋外の刺激を好む利用者が多く、外出プログラムを拡充している。</p> <p>・精神的な不安から支援員との徒歩送迎で通所していた利用者が、職員との信頼関係が高まった結果、他利用者とともに送迎車に乗れるようになった事例がある。必要に応じた個別対応と、地域社会の中で安定した生活を送るための取組が高く評価できる。</p>					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する利用者の希望とニーズに対応するため常勤職員を1名増員した。 ・法人の内部研修(神奈川県大和市中心)が受講しにくい立地であるが、研修内容を全職員で共有することを継続しており、限られた情報を全体で活用する仕組みを整えている。 ・支援事例の少ない障害を有する利用者を、専門機関の助言を得ながら積極的に受け入れ、障害支援の新たな分野を切り開くべく先駆的に取り組んでいる。 ・ヒヤリハットは起きた日にその原因を検証し、全職員で共有することを徹底している。また前年度に引き続き、事故は0件であった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	4	4
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・各種保守・点検、警備等については、委託により仕様書に沿って適切に実施されている。 ・外構の清掃は、職員自身が定期的に行い、美観を損なわないよう努めている。なお、施設内の清掃に関して、障害のある清掃員を直接雇用しており、「サービスを受ける対象としての障害者」という一面に意識が偏らないように考えられていることは評価できる。 					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・利用者支援や家族等との意思疎通等を的確かつ迅速に行うため、定例の会議にとどまらず必要に応じて職員がすぐに集合することにより起きていることを共有し、問題に対して全職員で結論を出して取り組む体制をとっている。
・地域で暮らしている様々な立場の人がお互いを知るための活動として、上階にある老人いこいの家の祭りで創作品の販売を行って好評を得ており、利用者のモチベーションの向上にもつながっている。また防災訓練を共同で行い、建物全体の安全管理体制を確認している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・これまで利用者満足度調査が実施されていないため、意見・要望を収集する方法の1つとして実施に向けた取組を行うこと。
・重度かつ支援方法未確立な障害のある利用者の受入れを積極的に行っていることについては評価できるが、30名の定員を充足することについては引き続き努力が求められる。